

多くの歯科医師・歯科衛生士の方々が、今この時も全国各地で予防歯科に取り組んでいます。「LION Dent.Forie」では、時代の趨勢となつている予防歯科への潮流の中で、日々活躍されている歯科医師・歯科衛生士の方々のさまざまな取り組みについてご紹介します。



新潟市秋葉区(旧新津市)の中心部からほど近い住宅地に、うめつ歯科医院があります。この地で開業して今年で22年目。梅津英裕院長が小児歯科出身ということもあり、患者の約3割は小児ですが、成人から高齢者まで幅広い年代が訪れる歯科医院として、地域の信頼を集めています。医院の理念は『予防は治療に勝る』。院長自ら「うちの主役は歯科衛生士」と言うように、勤務する6人の歯科衛生士はみな自信に溢れ、充実感のある表情で働いています。「患者と歯科医院の双方にとってベストな歯科医療とは何か」についてのお考えを伺いました。

## 予防歯科は、患者と歯科医師の双方にとって幸せな選択

歯科医師になって27年になりますが、これまでの実践で至った結論は「予防は治療に勝る」ということです。

長年やっている、自分が入れた補綴物が古くなり、壊れていくのを目の当たりにすることになります。補綴物を入れた日がベストの状態、あとは少しずつ劣化していく一方です。そういうのをずっと「見ていられる」よりは、できるだけ削らず、また病気を作らないようにする、というやり

方が、歯科医師にとっても患者さんにとっても幸せなことだ、と思うようになりました。

ただ、削ることを否定するわけではありません。削るときはきっちり削りますし、逆に中途半端ではためです。しかし、例えばロングスパンのブリッジを入れるときなどは、もっと工夫していれば別の方法があったのではないかと、という気持ちにどうしてもなつてしまいます。

## 長い目で見れば、 歯科衛生士の必要性は歴然

うめつ歯科医院の主役は、私ではなく歯科衛生士です。私自身は、もともと小児歯科の出身ですから、予防や定期検査の重要性は頭の中には入っていましたし、歯科衛生士の必要性も認識していました。でも、本当の意味でわかったのは開業してからですね。

そのきっかけになつたのは、同期の親友で、歯周病が専門の深井先生です(深井浩先生-日本歯科大学助教授、新潟大学講師を経て、深井・加藤歯科医院を開業。開業して間もなく、彼に週二回手伝つてくれと頼みました。彼は「へい、するかどうかかわからないけど、歯科衛生士をきっちり付けて、大学レベルのケアをやってもいいか」と言うので、それでいいからお願いします、ということになりました。

# キャリア27年 の結論、 『予防は治療に勝る』 その主役は歯科衛生士

新潟県新潟市 うめつ歯科医院  
院長 梅津 英裕 先生





梅津英裕（うめつ ひでひろ）先生 プロフィール

1984年日本歯科大学新潟歯学部卒業、同小児歯科学教室入局。  
1989年同教室退職、新潟市秋葉区（旧新津市）に「うめつ歯科医院」を開業。  
2006年新潟大学歯学部大学院予防歯学分野入学（社会人枠）、2010年修了。日本小児歯科学会専門医、博士（歯学）（新潟大学）。



うちの歯科衛生士は「患者さんの役に立ちたいから勉強する」とよく言っていますし、実際、自主的な勉強をかなりしています。担当制なので一人一人の患者さんの経過も私より頭の中に入っていますから、私が見逃したことも「先生、もう一回チェックしてもらえませんか」となります。私も当然頑張っていますが、一人でできることには限界があります。私と歯科衛生士の二人で、2つの頭と4つの目で患者さんを診たほうが良いに決まっています。

技工物を作るときの技工指示書にも、私からの申し送りだけではなく、彼女たちの要望も書きます。例えば、ここは歯間ブラシのSが入るようにつくってください、といったことです。ずっとそのサイズで指導していたのに、最後に補綴物を入れたことで状況が変わってしまうと困ってしまいますから。それは彼女たちでなければ分からないことです。



開放的な院内。  
待合室のすぐ後ろが小児コーナーになっており親御さんも安心。

### ブラークコントロールの指導は 歯間ブラシとフロスだけ

うちのブラークコントロールは、歯ブラシはほとんど指導しません。歯間ブラシとウルトラフロスを集中的に指導します。なぜなら、う蝕と歯周病のほとんどの原因は隣接面にあるからです。これも深井先生に教わった方法です。

まず、再現性のあるデータとして、口腔内のポケットのデータをしっかり取り取ります。それに基づいて、とにかくポ



スクーラーは自己管理。  
「自分の刃物は自分で」と梅津院長。

ケットのあるところを中心にしっかりとみがきましよう、ということ。歯の部分ごとに細かく指導します。そして、患者さんが一人で全てできるようになるまで徹底する。そこをいい加減にしよう、結局できないままでも何も変わりません。歯間ブラシなら、当てる角度や方向を全部覚えてもらいます。

それができて初めて、その後の検証が可能になります。次の来院時にきれいにブラークが取れていて、ジェット・ブロービングをしても出血してこなければ、これはちゃんときるようになっていて、実際にやってくれている。もし歯肉縁上で取れているのにブロービングで出血してきたら、できるけどやらなかった、という分析になります。それならそれで、「忙しいですが」「毎日やるのは大変ですか」という話ができる。もし取れていなくて、自分でやってみても上手くできなかったら、これは教え方が悪かったんだ、となる。そのように、問題をシンプルにして、一つずつ積み重ねていかなければ、結果は出ません。

歯科衛生士がポケットデータを正しく取れるようになるには、時間がかかります。しかし、それをきちんと取れば、自分で基本治療したときにも、治療前の予想と実際の治療後を比較できます。そうすれば、治っている場所と治っていない場所があったときに、どうして治らなかったんだ、と考えることができますよね。常にそういうプロセスを頭の中と行動で回していかなければなりません。

## 全身を見なければ 小児歯科は成立しない

最後に、専門の小児歯科の話を。大事なのは、最初の段階で親御さんとの信頼関係をきちんと作っておくことです。医院の配置としても、小児コーナーは一番手前です。基本的に親御さんには一緒に入ってもらいますが、子どもだけの場合でも、ガラス越しに様子が見えるようになっていきます。

あとは、子どもの悪い記憶を消すのは非常に大変なので、なるべくマイナスのイメージを与えないように心がけています。医院内にドアを作らなかったのも同じ理由です。ドアを開けると怖い世界が待っている、という一つの象徴になってしまいますので。

そして初診時には、まずはトレーニングルームでちゃんとトレーニングをして、その間にその子が苦手なことなどの情報収集をします。親御さんとも、そういうことについてきちんと話しておきます。

小児歯科はまずトレーニングから始め、信頼関係を築く。

小児歯科の技術的な問題としては、咬合の問題が大きいですね。それから口腔習癖や体癖、舌位をどうするか、というところ。そのままアプローチするところが、小児歯科には必要だと私は考えています。

親御さんは、子どもの歯並びがなぜ悪いか、という原因をご存知でない場合がほとんどです。でも、例えば、鼻が悪くて口呼吸になっているために、それが歯並びに影響して下顎は反対咬合になっている、といった話をすればよく理解してくれそうです。そうした説明なしでは、信頼関係が築けませんし、信頼関係なしで小児歯科は成り立ちません。今もある程度まではできていると思いますが、その部分はまだまだ頑張っていかなければならないと思います。

## 患者さんを知れば知るほど 歯科衛生士にできることは増えていく

日本歯周病学会認定歯科衛生士 金塚 ひとみ さん



近隣医院の歯科衛生士と共同で制作したオリジナルの「お口の健康ファイル」

私は歯科衛生士になって15年目になります。1年目は違う医院に勤務していましたが、2年目からは当院です。今では10年以上のお付き合いになる患者さんも増えました。中には高齢で体調を崩される方もいらっしゃいます。そこで患者さんがお持ちの全身疾患についてもアドバイスできるように、院内で月に2回勉強会を開いて症例を検討するとともに、歯科以外の全身疾患について勉強しています。勉強会のテーマは、6人の衛生士が交代で決めます。それぞれが担当の患者さんに必要だと思っテーマを選択し、全員で情報交換をするという形です。当院は担当歯科衛生士制ですので、患者さんの癖や生活習慣をより細かく把握できますし、コミュニケーションも取りやすいです。例えば、先生

が麻酔をするにあたっても、患者さんのことを理解していれば、この方は人並み以上に怖がりや痛がりだから、普通より表面麻酔を長めに行う、といった対応ができます。当院ではメインテナンス率が比較的高いのです。

が、これは治療を進めていく中で、予防の必要性を何度も繰り返し説明しているからだと思います。何が原因でカリエスになったり、歯周病が進んだのか、歯列がなぜ崩れてきたのか、ということを検査データや口腔内写真

真、問診から得た情報を基に詳しく説明します。また、私も臨床経験を積んでいますので、患者さんの口腔内の5〜10年後を予測できるようになってきました。「歯周病の治療は期間が長く面倒だ」という患者さんに、「でも、今きっちり治さないと将来歯が抜けて入れ歯になる可能性が高いですよ。そうならないために一緒にがんばりませんか」とお話しすると、「入れ歯は嫌だな」ということで歯周治療を受けていただけます。そして、口腔内がきれいになり、気持ちよさを実感していただければ、患者さんも自分から良い状態を保ちたいと思うようになります。歯科衛生士として、まだまだこれからたくさんことを学び、患者さんとできるだけ長くお付き合いをしていきたいと思っています。今はとにかく、患者さんが口腔内はもちろんのこと、全身が健康で長生きしてほしい、という気持ちで毎日の仕事に励んでいます。